

景況レポート

(1月分・情報連絡員80名)

DI値は3ヶ月ぶりに下降 ～寒波と大雪の影響により消費が停滞～

【概況】1月の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが7.5%(前月調査8.8%)、「悪化」が40.0%(同38.8%)で、業界全体のDI値は-32.5となり、前月調査と比較して2.5ポイント下回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-25.0で前月調査(-21.9)と比較して3.1ポイント下回った。また、非製造業全体のDI値は-37.5で前月調査(-35.4)と比較して2.1ポイント下回った。

この冬は、県内を幾度も寒波が襲った上に、沿岸部を中心に例年より積雪が多くなった。特に、秋田市内では除排雪が追いつかず、企業活動や市民生活に大きな影響が及んだ。一方で、為替相場が円安となり、原材料や燃料価格の上昇を懸念する声が多かった。

(回答数：80名 回答率：100%)

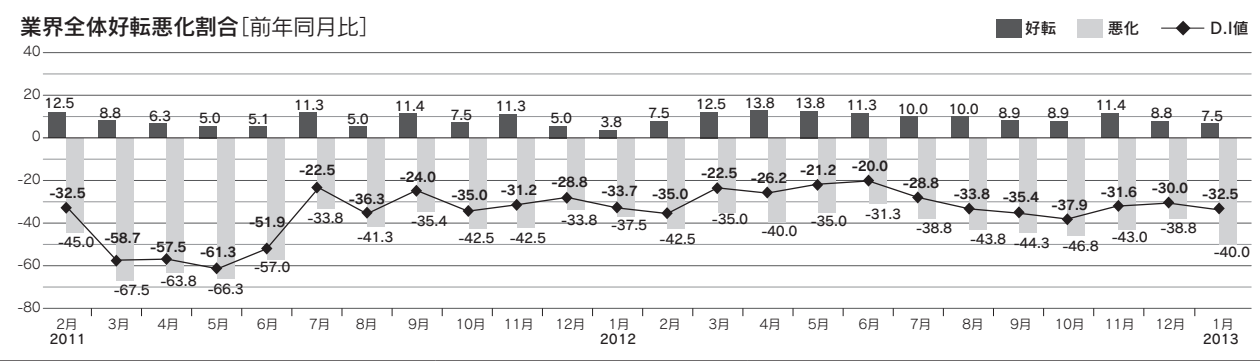
項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業						
非製造業						

【凡例】

--	--	--	--	--

【天気図の見方】
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index (ティフュージョン・インデックス) の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。



業界の声

精穀・製粉業	例年売上が悪い時期ではあるが、今年は大雪の影響もあり、売上が減少した。原料価格、燃料価格等の上昇によって、厳しい収益状況となっている。
一般製材	製材品は不需用期に入っており、厳寒の影響で生産が落ち込んでいる。円安傾向が進み、外材の値上がりから国産材への引き合いが強まることへの期待感がある。
生コン	1月の出荷数量は前年同月比19.6%増加。4月～1月累計では前年比9.2%増加。秋口からの骨材の大幅な値上がりに加え、セメント各社からの値上げ要請を受け、県内組合員各社はコスト上昇分の内部吸収に努めてきたが、既に限界にきており、値上げを実施せざるを得ない状況となってきた。
青果卸	前年同月比95.4%で推移した。今冬は全国的に寒い日が続く、野菜の生育の影響により入荷量が減少するなど、野菜全般に価格の高騰が見受けられる。今後、気温の上昇による安定した供給を期待している。
自動車販売	1月の新車販売台数は、登録自動車1,470台(前年同月比83.1%)、軽自動車1,697台(同101.3%)で、合計3,167台(同91.9%)であった。
石油販売	ガソリン1ℓあたり147円30銭で前月比+3円30銭。軽油1ℓあたり127円90銭で前月比+2円50銭、配達灯油は18ℓで1,769円で前月比+90円となった。ガソリン、軽油、配達灯油ともに5週連続で上昇している。今後、円安の影響が気になる。
商店街	昨年末からの大雪で、商店街への客足が低調となっており、売上げにも響いている。(能代市)
タクシー	穏やかな日が少なかった上に道路や歩道の除排雪が遅れたため、タクシーの依頼が多かったが、渋滞と小路の悪路に悩まされ、依頼には十分に答えることができなかった。特に高齢者や通院客の送迎は苦勞した。
型枠工事	県内全域において、稼働率が高く、組合員相互に常用応援の連絡を取り合っている状況で、県内の施工単価も上昇している。
トラック	数量、収入とも前年同月比で10%減少した。品目別では、自動車部品が5%減少、自主米20%減少、その他貨物20%増加。燃料価格は前月比+2円80銭、前年同月比+3円80銭で推移した。昨年末以降、円安が進行し、また原油価格の上昇により、事業収益は悪化している。